

## 新フェローの紹介

### 上田 徹 (うえだ とおる) 氏

昭和 21 年 7 月 5 日生れ

〔現住所〕 東京都田無市西原町

〔学歴〕 昭和 46 年 京都大学大学院工学研究科数理工学専攻修士課程修了

昭和 59 年 工学博士 (京都大学)

〔職歴〕

昭和 46 年 4 月 日本電信電話公社 (現 NTT) 入社

平成 7 年 4 月 成蹊大学工学部経営工学科教授

この間、電気通信大学工学部、成蹊大学工学部大学院非常勤講師を歴任、現在芝浦工業大学工学部非常勤講師兼務

〔OR 学会関係〕 IAOR 委員 昭和 56~59 年度、機関誌編集委員 平成 8~9 年度、理事 (庶務) 平成 9~10 年度、OR 事典・事例編、用語編編集委員 平成 10~11 年度、現在評議員、その他「評価の OR」研究部会幹事・主査、第 34 回シンポジウム実行委員長、研究発表会実行委員・委員長、OR セミナーオーガナイザー、名簿刊行委員長、財政問題検討・会員増強委員等を歴任

〔著書等〕 マーケティングハンドブック (共訳)、経営効率評価ハンドブック (共訳)、論文約 50 編、発表多数

上田氏は、NTT 研究所時代は予測、マーケティング関連の研究で多くの発表をされましたが、この 6 年間研究部会及び研究グループとして活動してきた「評価の OR」では幹事、主査としてその活動を支えられてきました。近年研究の重心は DEA や AHP などの意思決定法に移されてきましたが、特に DEA に関しては第 34 回シンポジウム実行委員長、平成 8 年度第 2 回 OR セミナー・オーガナイザーを務められる一方、経営効率評価ハンドブックの翻訳に努力され、DEA の普及に貢献されました。また平成 9~10 年度の理事 (庶務) として学会定款改正に貢献され、学会の研究発表会では実行委員長を含め 3 度にわたり実行委員を務められるなど、本学会の発展に尽力されています。

### 香田 正人 (こうだ まさと) 氏

昭和 22 年 4 月 28 日生れ

〔現住所〕 東京都町田市三輪緑山

〔学歴〕 昭和 46 年 東京大学工学部航空学科 (宇宙コース) 卒業

昭和 51 年 同大学院工学系研究科航空学専門課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 51 年 カリフォルニア工科大学研究員

昭和 53 年 東京大学工学部航空学科助教授

昭和 57 年 日本アイ・ビー・エム (株) 東京サイエンティフィック・センター (現東京基礎研究所) 主任研究員、研究担当マネージャー等を歴任、この間、IBM T. J. Watson 研究所に勤務

平成 10 年 筑波大学社会工学系教授

〔OR 学会関係〕 研究普及委員 昭和 58~59 年度、理事 (研究普及) 平成 4~5 年度、論文誌編集委員 平成 6~7 年度、理事 (庶務) 平成 8~9 年度、評議員 平成 4~7 年度・平成 10~11 年度、創立 40 周年記念事業国際交流委員会主査 平成 11 年度~現在、その他、財政問題検討・OR 企業サロン企画・丸の内 OR 研究会企画委員等を歴任

〔著書等〕 査読付き学術論文 25 編、講演・研究発表多数

香田氏は、システム情報数理工学分野における分布定数系、確率微分方程式系、複雑系等に関するシステムモデルの感度解析と最適化について国内外で幅広い活動をされ、特に、環境問題が顕在化して社会的に広く認識されるようになった頃から、大気汚染物質等の環境への拡散現象を観測データに基づいて最適予測する分布定数系推定理論に関して先駆的な成果を挙げてこられました。近年はデータウェアハウスからの知識発見技術として注目されているデータマイニングを中心に活動されており、同氏が一連の功績を挙げてこられた感度解析理論の適用による、ニューラルネットワークの新しい確率的学習手法を提案してデータマイニ



ングへの応用を研究され、また、複雑系や確率微分方程式系としての金融工学システムへの確率感度解析の適用も試みておられます。本学会においては、理事・評議員・各種委員を歴任され、最近では、学会創立40周年記念事業国際交流委員会主査として、本学会やAPORS加盟諸国の若手研究者への学術交流支援と育成に尽力されるなど、本学会の運営、発展に貢献されています。

### 小金澤 章吾 (こがねざわ しょうご) 氏

昭和14年8月12日生れ

〔現住所〕大阪市西区京町堀

〔学歴〕昭和38年 一橋大学商学部卒業

〔職歴〕

昭和38年 住友銀行入行

昭和53~57年 東洋工業(株) (現マツダ) へ出向

昭和58年 住友銀行市ヶ谷支店長

昭和59年 同行赤坂支店長

昭和62年 西日本旅客鉄道(株)取締役

平成2年 同常務取締役

平成8年 ジェイアール西日本開発(株)代表取締役社長

〔OR学会関係〕理事(無任所) 平成6~7年度、評議員 平成8~10年度・現在、副会長 平成9~10年度、その他創立40周年記念事業の各種委員を歴任

小金澤氏は、長年銀行業に携わるとともに昭和53年~57年には東洋工業(株) (現マツダ) の第1次再建の業務に従事され、昭和62年以降はJR西日本の再生の一翼を担うなど、産業界各業界に亘って幅広く活躍されています。本学会においては、副会長、理事、各種委員(長)を歴任され、特に財政面から学会活動を積極的にバックアップされるなど、本学会の発展に貢献されています。

### 高橋 敬隆 (たかはし よしたか) 氏

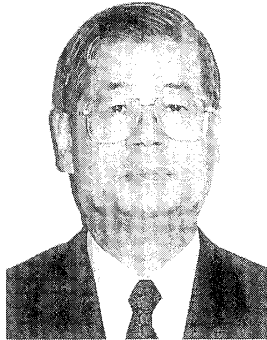
昭和31年2月28日生れ

〔現住所〕東京都保谷市柳沢

〔学歴〕昭和53年 早稲田大学理工学部数学科卒業

昭和55年 同大学院理工学研究科数学専攻修士課程修了

平成2年 理学博士(東京工業大学)



〔職歴〕

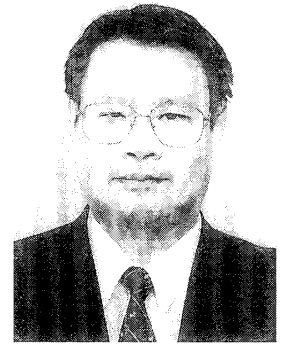
昭和55年 日本電信電話公社(現NTT)入社

昭和57年 同武蔵野電気通信研究所主任研究員

昭和62年 NTT交換システム研究所主任研究員

平成4年 同通信網総合研究所主幹研究員

平成12年 早稲田大学商学部助教授



この間、ロチェスター大学経営大学院客員研究員、玉川大学特別講師、電気通信大学・工学院大学・長岡技術科学大学・群馬大学非常勤講師を歴任

〔OR学会関係〕第23回文献賞 平成7年度、「待ち行列」研究部会幹事 平成2~3年度、機関誌編集委員 平成4~7年度、論文誌編集委員 平成8~9年度、研究普及委員 平成11年度~現在

〔著書等〕通信トラヒック理論とマルチメディア通信網(共著、電子情報通信学会、1995)、情報ネットワークと待ち行列(共著、朝倉書店、2000)、実践情報流通トラヒック理論(共著、電子情報通信学会、2000)、情報通信活用事典(共著、産業調査会、2000)、計算機システムの解析と設計(共訳、オーム社、1988)、経営科学OR用語大事典(共訳、朝倉書店、1999)、査読付き論文40編、その他論文・解説・学会発表多数

高橋氏は、電電公社電気通信研究所入所以来、待ち行列モデルを用いて情報通信ネットワークにおける輻輳現象を理論的に解明する研究を精力的に行なってこられました。また国際的に見ても早い時期に、電話・データ・画像・移動体などいろいろなサービスを一つのネットワークで総合的に処理する総合サービスデジタル通信網(ISDN, Integrated Services Digital Network)を設計・評価・運用するための基本モデルとして多呼種集団到着待ち行列モデルを提案し、種々なアプローチを駆使・開発しながらその解析を活発に行なってこられました。平成7年度には、点過程論的アプローチにより優先処理のある多呼種集団到着待ち行列モデルに対する分布版リトルの公式を見出し、その成果に対して本学会文献賞が授与され、現在は、OR精神の原点に立ち、経営・情報システムの数理に関する研究・教育に従事、本学会の発展に尽力されています。

## 田中 庸平 (たなか ようへい) 氏

昭和 15 年 11 月 28 日 生れ  
〔現住所〕愛知県安城市今本町

〔学歴〕昭和 38 年 名古屋  
大学理学部数学科卒業

〔職歴〕

昭和 38 年 中部電力(株)入社  
昭和 55 年 同情報システム  
部課長

昭和 61 年 同技術研究所情報制御研究室長

平成 4 年 同情報システム部担当部長

平成 10 年 中電コンピューターサービス(株)システム  
第 1 事業部長, 現在, システム事業推進本部長代理

〔OR 学会関係〕評議員 平成 2~5 年度, 中部支部  
副支部長 平成 2~3 年度, 中部支部長 平成 4~5 年  
度, 中部支部監事 平成 6~9 年度, その他中部支部  
幹事・運営委員等を歴任

田中氏は中部電力において, 経営計画, 設備計画,  
工事計画, 人事計画, 運用計画, 燃料計画等多岐にわ  
たる分野において OR 理論を実務へ幅広く適用し, 幾  
多の成果を挙げられました。また, OR の考え方, 方  
法論について社内研修を実施するなどその普及にも努  
めてこられ, その成果として中部電力は本学会実施賞  
を授賞しておられます。また, 昭和 40 年代から長年  
にわたり中部支部の幹事・運営委員として支部活動に  
積極的に参画され, 平成 4~5 年度には支部長として,  
新規賛助会員の勧誘に務められるなど, 本学会の発  
展に貢献されています。

## 平木 秀作 (ひらき しゅうさく) 氏

昭和 17 年 3 月 10 日 生れ  
〔現住所〕広島県安芸郡江田  
島町

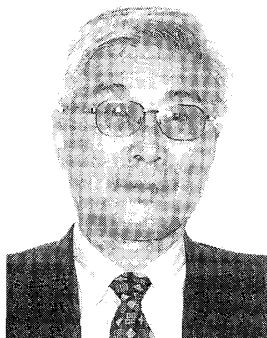
〔学歴〕昭和 39 年 3 月 広  
島大学工学部工業経営学科卒  
業

昭和 41 年 3 月 同大学院工  
学研究科経営工学専攻修士課  
程修了

昭和 52 年 工学博士 (早稲田大学)

〔職歴〕

昭和 41 年 4 月 広島工業大学機械工学科助手



昭和 41 年 11 月 広島大学工学部教務員

昭和 43 年 3 月 同助手

昭和 56 年 4 月 広島大学経済学部助教授

昭和 58 年 4 月 同教授

〔OR 学会関係〕評議員 平成 8~9 年度, 第 9 回  
RAMP シンポジウム実行委員長 平成 9 年度, その  
他中国四国支部幹事・評議員等を歴任

〔著書等〕自動車の現地生産と部品調達 (溪水社,  
1996), OR 事典 (分担執筆, 日科技連, 1975), 経営  
工学便覧 (分担執筆, 丸善, 1975), 生産管理の事典  
(分担執筆, 朝倉書店, 1999), 査読付論文 48 編, そ  
の他論文 82 編, 学会発表多数

平木氏は, 自動車の生産管理, 特に, 混合ラインの  
設計, 多段工程の生産指示システムの設計について研  
究され, 最近, 現地組立生産システムにおける部品  
調達方式の設計や多国間で相互に部品を供給しあう相  
互補完生産システムの設計について研究を行なってお  
られます。本学会においては, 昭和 41 年の中国四国  
支部設立時からしばらくの間, 支部事務局の業務を担  
当され, その後支部評議員を務められました。また,  
平成 9 年度第 9 回 RAMP シンポジウム実行委員長,  
創立 40 周年記念事業統合オペレーション・特設研究  
グループ, 特設 G7: 「国際協力による相互補完シ  
ステムと管理技術の移転」の主査を務められるなど, 本  
学会の発展に貢献されています。

## 古川 浩一 (ふるかわ こういち) 氏

昭和 13 年 8 月 4 日 生れ

〔現住所〕東京都国立市中

〔学歴〕昭和 37 年 3 月 早  
稲田大学政治経済学部経済学  
科卒業

昭和 39 年 3 月 一橋大学大  
学院商学研究科修士課程修了

〔職歴〕

昭和 39 年 4 月 東京工業大  
学理工学部経営工学科助手

昭和 53 年 4 月 同大学工学部経営工学科助教授

平成 3 年 12 月 同教授

平成 8 年 5 月 同大学大学院社会理工学研究科経営工  
学専攻教授

平成 11 年 4 月 東京工業大学名誉教授

平成 11 年 4 月 岩手県立大学総合政策学部教授

〔OR 学会関係〕「ファイナンスの OR」研究部会主査



平成 5～9 年度

〔著書等〕財務分析の研究（同文館，1988），経営計算（共著，朝倉書店，1982），ファイナンス・ハンドブック（共監訳，共訳，朝倉書店，1997），基礎からのコーポレート・ファイナンス（共著，中央経済社，1999），他著書（共著を含む）20冊，論文多数

古川氏は，古くからファイナンス，特に企業におけるファイナンス問題について研究をされ，工学部において1970年代から経営財務の講義を担当されてきま

した．その中で文科系の領域とされてきたファイナンス問題が理工系，特にORの重要なテーマの1つであることを指摘され，工学部においてファイナンス研究に取り組んでこられた先人の一人であり，本学会においては，長年にわたり「ファイナンスのOR」研究部会主査を務められました．研究論文では，有効フロンティアを容易に求める方法を提案し，最近では，分かりやすいテキストを刊行され，その普及に努めておられます．